

平成 26 年サワラ春漁の漁況予報

平成 26 年 4 月 10 日

香川県水産試験場

1. 香川県のさわら流しさし網（春漁）による漁獲状況

漁獲量の推移を図 1 に示しました。平成 19 年以降年々増加していましたが、25 年はサワラ 416.0 トン、サゴシ 29.2 トンの計 445.2 トンとなり、24 年よりやや減少しました。

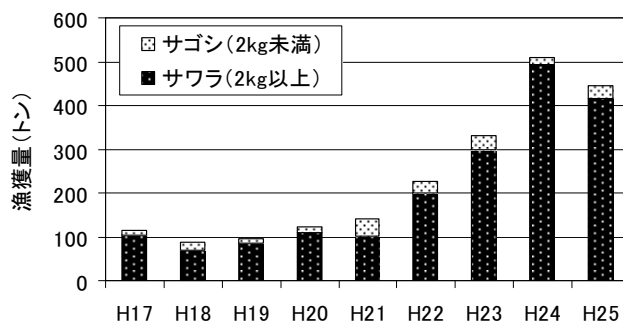


図 1 香川県のさわら流しさし網（春漁）による漁獲量
漁獲成績報告、主要漁協漁獲量報告に基づき、香川県が集計。

2. 平成 25 年に稚魚はどの程度発生して育っているか（0 歳魚資源尾数の推定）

各年の 0 歳魚資源尾数については、独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所が各府県のデータを収集解析して推定しています。現在、平成 24 年発生群まで示されていますが、25 年発生群については香川県で得たデータから推定する必要があります。

そこで、瀬戸内海区水産研究所が示した尾数と相関が高い香川県のデータを選定し、回帰直線を使って推定しました。結果は図 2 のとおりで、平成 25 年 0 歳魚資源尾数を 1,100 千尾としました。

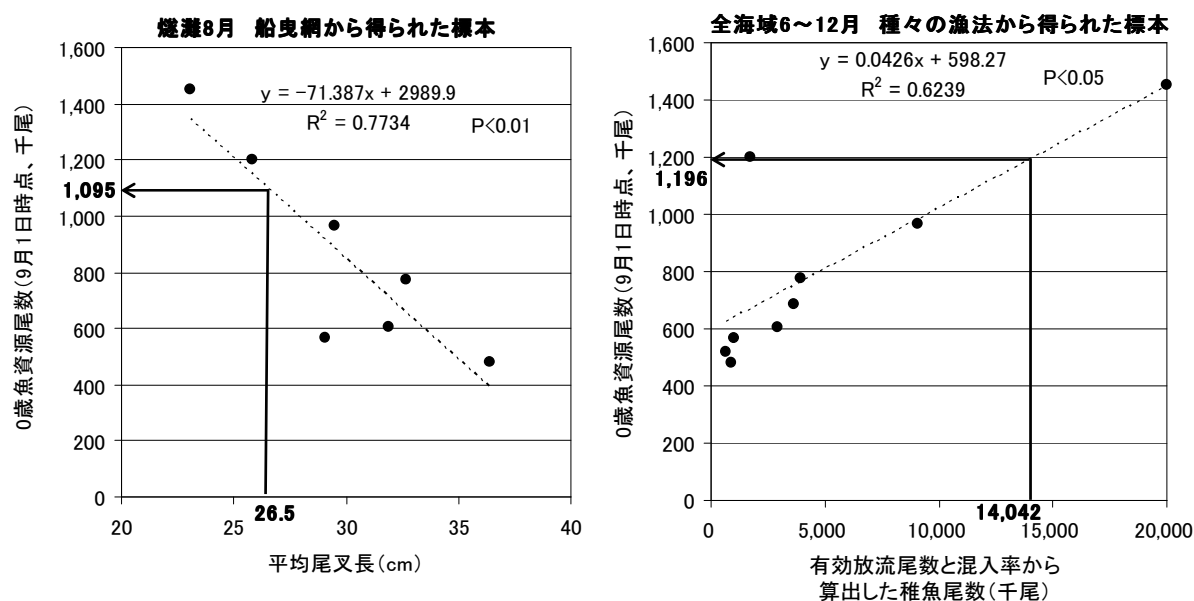


図 2 平成 25 年発生 0 歳魚資源尾数の推定

0歳魚資源尾数の推移を図3に示しました。平成25年は多めであると考えられます。

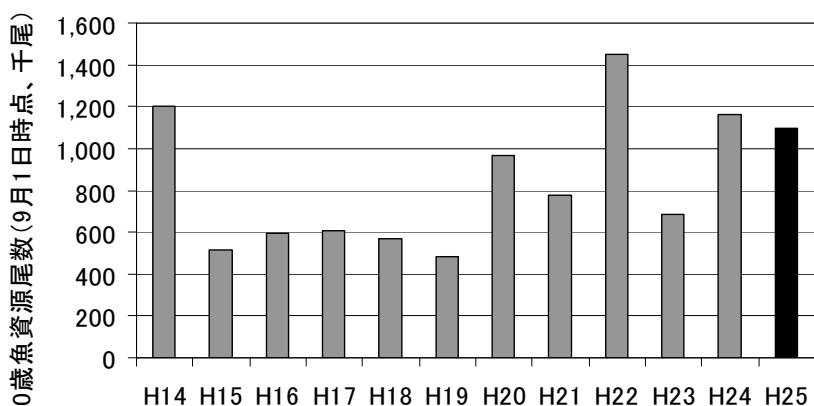


図3 0歳魚資源尾数の推移

H14~H24：瀬戸内海区水産研究所による資源評価

H25：香川県水産試験場による推定

3. 平成26年春漁の漁況予報

0歳魚資源尾数の多寡は、2年後、3年後の漁獲量に反映されます。例えば、近年で最も多かった平成22年発生群は、24年に2歳魚、25年に3歳魚として多く漁獲され豊漁をもたらしています。

平成26年春漁における各年齢の漁獲尾数を25年のそれと比較すると表1のように推定され、2歳魚(体重3kg程度)主体の漁獲になると予測されます。また、近年の傾向として4歳以上魚の漁獲は少ないと考えられます。1尾あたりの重量を勘案して漁獲重量でみると、26年は25年に比べ、サワラ(2歳以上魚)、サゴシ(1歳魚)、合計ともにやや減少すると予測されます。なお、サワラの回遊、漁況は、水温や餌料となる魚類の分布状況の影響を受けて変化する可能性があります。

表1 平成26年春漁における漁獲尾数の推定(平成25年との比較)

年齢	平成26年春漁	尾数の比較(平成25年と比べて)	平成25年春漁
1歳	平成25年発生群	やや減少	平成24年発生群
2歳	平成24年発生群	かなり多い	平成23年発生群
3歳	平成23年発生群	かなり少ない	平成22年発生群

瀬戸内海区水産研究所によるサワラ瀬戸内海系群の資源評価では、水準は低位、動向は増加となっています。本格的な資源回復の指標として、より高齢化、小型化、晩熟化が提示されており、特に若齢魚に対して現状以上の漁獲規制を実施・継続し、資源量をより増加させることが必要であるとの見解が出されています。目合の規制、休漁日の設定などの資源管理の取組みを継続することが必要です。